

実践『ペルソナ』通信 (No. 68)  
「女子大生のお昼ご飯」に関する調査結果

実践女子大学人間社会学部 実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、「女子大生のお昼ご飯」についてアンケート調査を実施しました。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計学科（担当：竹内光悦）」、「経営学（担当：篠崎香織）」、「マーケティング（担当：斉藤明）」の3つの分野のゼミ生を中心に組織され、実践女子大学生が「自分たち自身」の消費活動、ライフスタイル等を科学する研究会です。

総括

実践女子大生が「お昼ご飯」について最も重要視するのは値段である。持参するお弁当をお昼ご飯にする学生が多かったが、自分で作る人はあまり見られず、親に作ってもらうなどする人が多かった。ほかには、コンビニエンスストアで販売しているおにぎりや菓子パンといった比較的腹持ちの良さそうなもので、かける費用が500円以下の節約志向が全体的に見られた。

調査結果のポイント

- (1) お昼ご飯選びにおいて全体の約5割が値段を最も重視している  
お昼ご飯選びにおいて、最重要視されていたのは「値段」であった。次いで「好み」や「味」であったが、人間が生命活動をするにあたって必要である「栄養バランス」を重視する学生の割合が低かった。
- (2) お弁当を持参する人とコンビニなどで購入する人の割合はそれぞれ4割ずついる  
学生が「お昼ご飯」とするのは、持参した「お弁当」や、道中にある「コンビニ」で購入してくることが多い。また、「お昼ご飯」にかかる金額は500円以下が半数であった。
- (3) お昼ご飯の内容と自由に使える金額に関係性は見られなかった  
1ヵ月に使える金額は「50,001円～80,000円」が一番多い割合であったが、それに伴って「お昼ご飯」に高額な金額をかけるという結果は見られなかった。使用できる金額に差があったとしても、「節約志向」が多くの学生にあり、「お昼ご飯」にはそれほど費用をかけないようだった。
- (4) お弁当持参で実家暮らしの約8割がお弁当を自分で作らない  
「お昼ご飯」の内容において、「お弁当」と回答した人が4割をいたが、そのうち「実家暮らし」をしていて、お弁当を自分で作らない学生は8割であった。自分以外の家族が作ってもらっていて、そのついでとして作ってもらうケースが多いようだ。

(5) 1年生はお弁当を持参する人が多い傾向にある

1年生はまだアルバイトを始めていない人が多いせい、1カ月に使える金額も少ないため、「弁当」を持参する学生が多かった。また学年が上がった2、3年生は、1年生と比べて使える金額にも少しゆとりができ、「コンビニ」での購入や、「学食」でお昼ご飯をとることが出来るようだ。

(6) お昼ご飯の形態とお昼ご飯を食べる際の人数には関係性は見られなかった。

どんなお昼ご飯の形態でも、2~4人でお昼ご飯をとるという人が多い結果になったが、学食をよく食べる人の中では、5人以上でお昼ご飯をとると答えた人も、2~4人で食べると答えた人の割合と変わらなかった。

#### 調査概要

- 調査対象：実践女子大学の1~3年生
- 調査方法：Google フォームによるインターネット調査
- 調査期間：2018年6月4日~8日
- 有効回答者数：112人
- 回答者の属性：実践女子大学生 1年生：27.7% 2年生：25% 3年生：47.3%

#### 本件調査担当

実践『ペルソナ』研究会

3年 齋藤 梨佐子

酒井 愛実

榊原 由里絵

#### 調査結果データ

(1) お昼ご飯選びにおいて全体の約5割が値段を最も重視している

実践女子大学生が昼食選びで最も重視するのは「値段」であり、45.5%と半分近くを占めていた。その次に「好み」で20.5%、「味」で17%、「栄養バランス」で10.7%、その他には少数ではあるが「量」と「アレルギー物質が入っていないもの」という意見もあった(図1)。

それに関連して、お昼ご飯を購入している人の中でお昼ご飯にかける値段は、300円以下が20.9%、301~500円が51.2%と一番多く、501~800円が27.9%でそれ以上の金額をかけている人はいなかった(図2)。

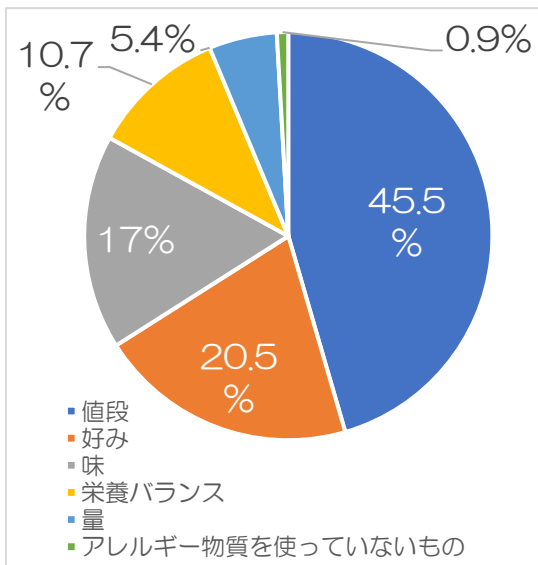


図1 お昼ご飯選びで最も重視すること (N=112)

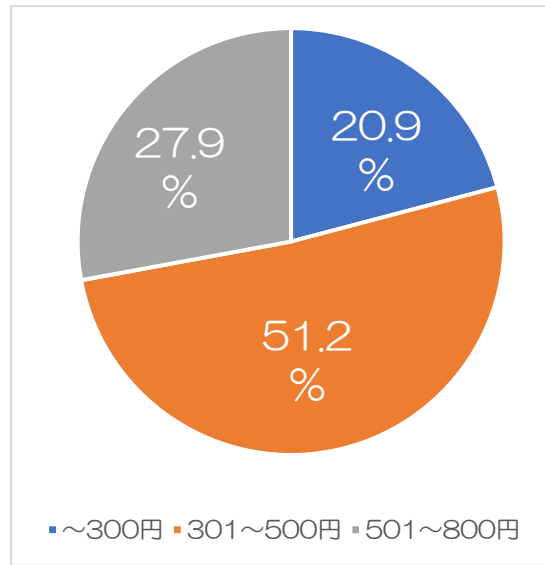


図2 購入する場合にける金額 (N=43)

(2) お弁当を持参する人とコンビニなどで購入する人の割合はそれぞれ4割ずついる。持参した「お弁当」が39.3%、コンビニなどで「購入する」が38.4%と近い数値となっている。「購入する」の74.4%が「セブンイレブン」などの通学道中にある「コンビニ」であり、「学校内にあるコンビニ」は23.3%であった。「学食」の割合が16.1%と低く、理由としては、「席が空いていないから」という声が多かった。また、「食べない」という学生は、「授業が3限からであり、家で食べてくる」ことや、「お腹がすかない」という声があった。「コンビニ」では「おにぎり」や「パン」が購入されるケースが大半であり、昼食にける値段は「301~500円」が半数を超えていた(図3、図4)。

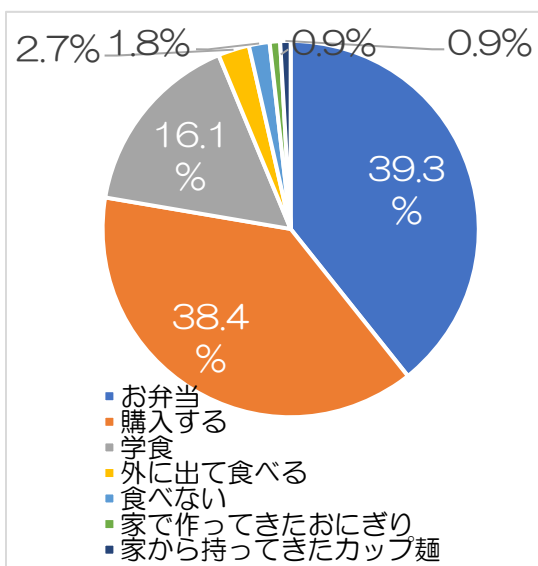


図3 よく食べるお昼ご飯の実態 (N=112)

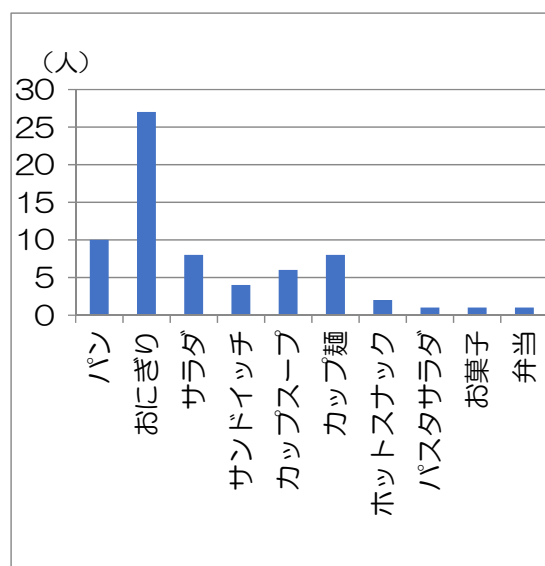


図4 コンビニで購入するお昼ご飯の内容 (N=43)

(3) お昼ご飯の内容と自由に使える金額に関係性は見られなかった

一か月で自由に使える金額によってお昼ご飯に何を選ぶかわ変わると予想を立てて比較したが、それらにはっきりとした関係性は見られなかった。使える金額に関係なく、お弁当や学食、購入するという回答にばらつきが見られた(図5)。

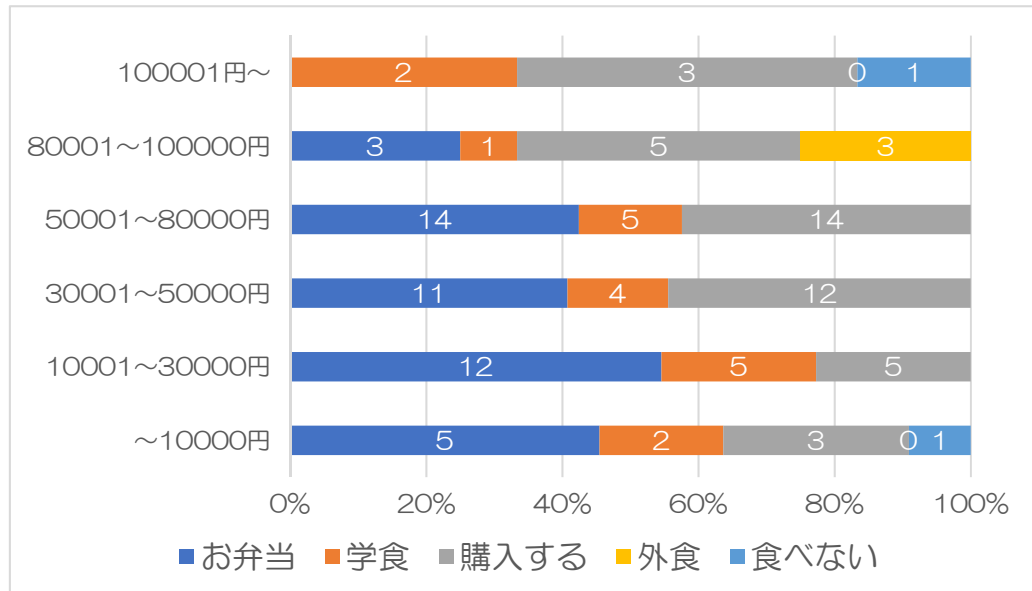


図5 自由に使える金額とお昼ご飯の関係性 (N=112)

(4) お弁当持参で実家暮らしの約8割がお弁当を自分で作らない

お弁当を持参し、かつ実家暮らしであると回答した人の中で、自分でお弁当を作る人は21%で、大半の人が自分で作っていないということが分かった。その理由として、親に作ってもらっているという回答が大半で、兄弟のお弁当のついでに作ってもらっている回答もあった。一方、自分で作っている人の理由としては料理が上手になりたい、栄養バランスを自分で調節したいという回答があった(図6)。

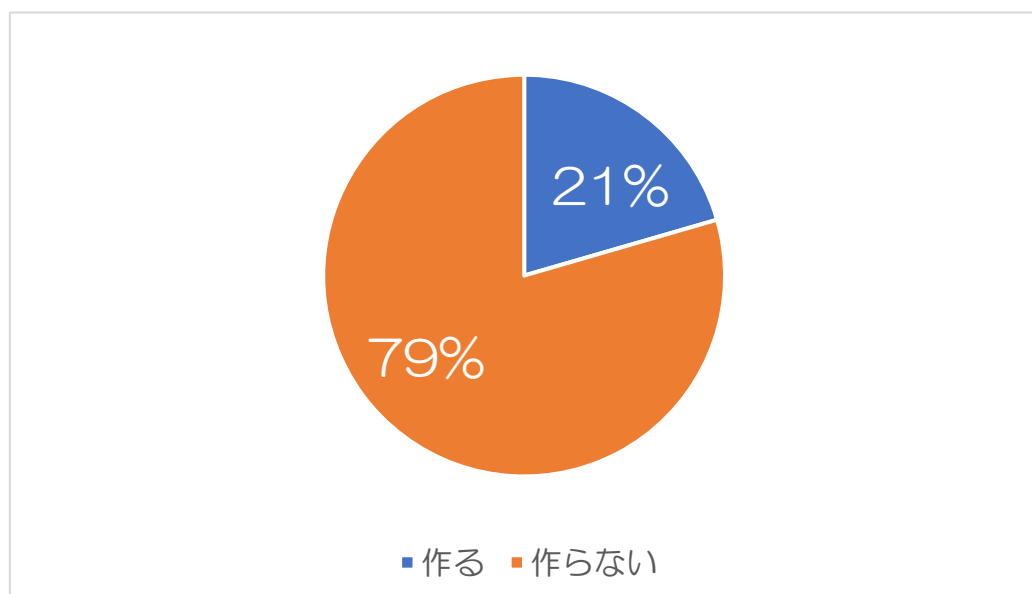


図6 お弁当持参で実家暮らしの場合の自分でお弁当を作る割合 (N=39)

(5) 1年生はお弁当を持参する人が多い傾向にある

学年ごとでお昼ご飯の形態を比較すると、1年生は2、3年生と比べてお弁当を持参する人の割合が多い傾向があり、3年生はほかの学年と比べて購入する人の割合が多い傾向があった。図7より、学年が上がるにつれてお弁当を持参する割合が減り、購入する人の割合が増えていることが分かる。お弁当を持参する人の理由として、作ってくれるから、兄弟がいるためそのついでに作ってもらっているなどの回答がいくつかあったことから1年生は高校時代に作ってもらっていた延長や、下にまだお弁当が必要な中高生の兄弟がいる人が比較的多い可能性があるためお弁当を持参する人の割合が多いと考えられる(図7)。

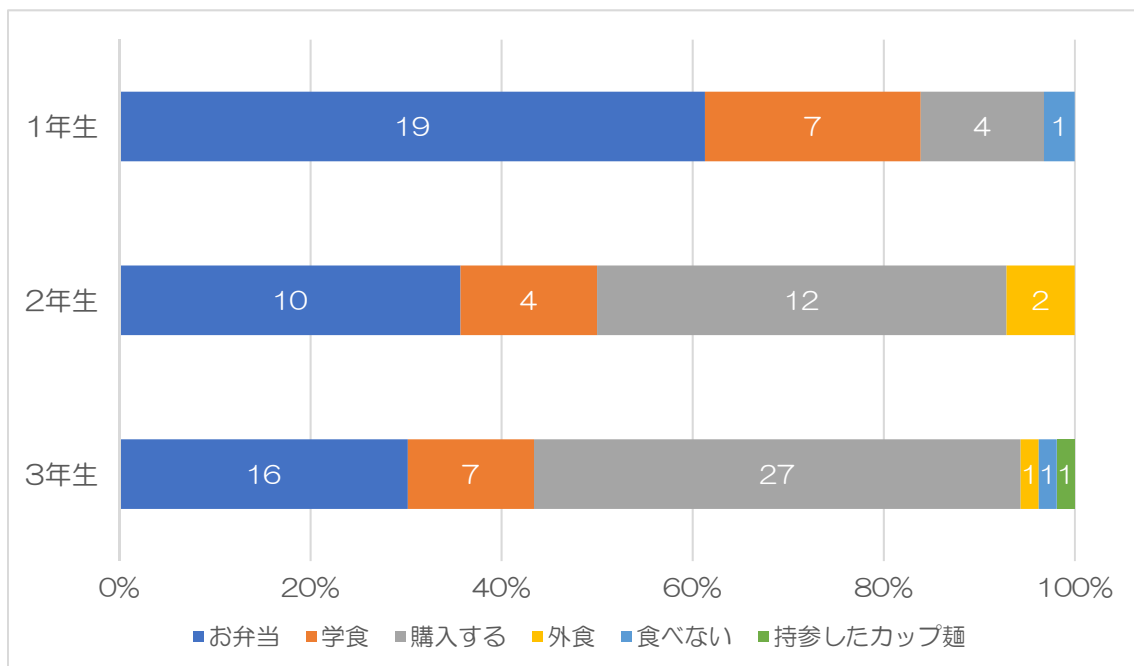


図7 学年ごとのお昼ご飯の形態 (N=112)

(6) お昼ご飯の形態とお昼ご飯を食べる際の人数には関係性は見られなかった

どんなお昼ご飯の形態でも、一緒にお昼ご飯をとる人数は「2~4人」と回答した人が多い結果となり、お昼ご飯の形態による一緒に食べる人数の違いは特に見られなかった。しかし、どのようなお昼ご飯を食べることが多いかというアンケートで、学食で食べると回答した人が少なかった理由として「混んでいて席が空いていないから」と回答した人がいて学食は混んでいて大人数で席を確保するのは難しいという印象だったが、この調査では意外にも学食を「5人以上」で食べると回答した人が「2~4人」と回答した人と同数であった(図8)。

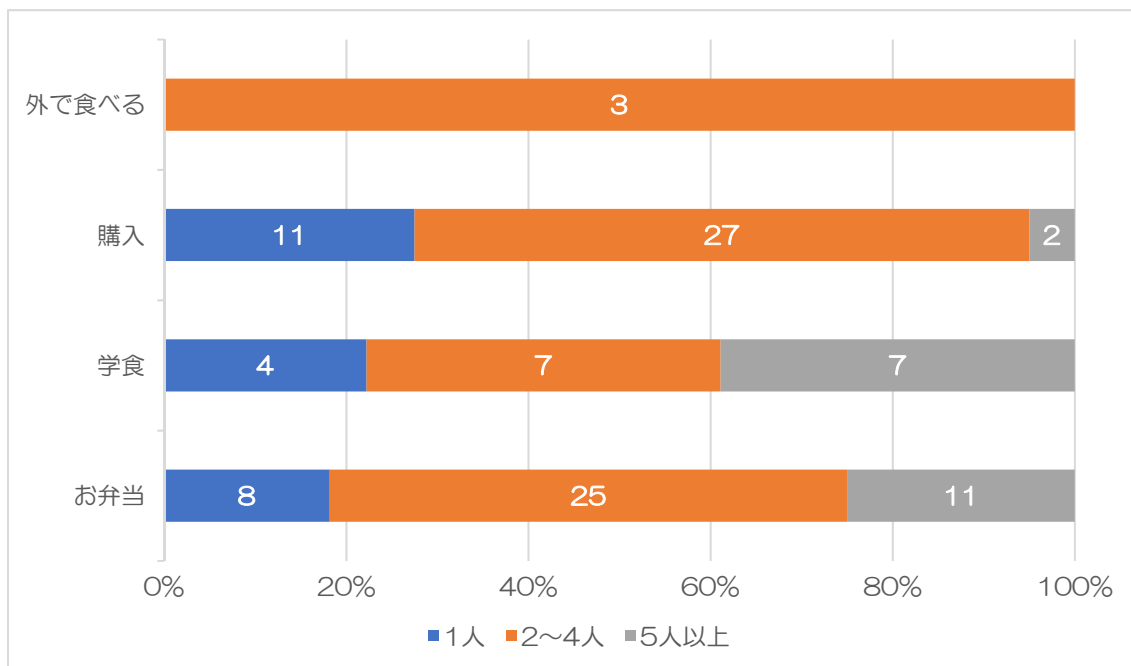


図8 お昼ご飯の形態とお昼ご飯を食べる際の人数の関係性 (N=112)

#### 考察

実践女子大学の学生のお昼ご飯選びにおいて、最も重視されるのは値段であったが、一か月で自由に使える金額との関連性は見られなかった。また、一人暮らしに比べて実家暮らしだとお弁当を持ってくる割合が上がるという点から生活環境がお昼ご飯に関係することが分かった。お弁当を持ってくる人の理由として、学校のコンビニが混雑していて買うのに時間がかかる、学食の席が混んでいて座れないなど、仕方なくお弁当を持って来ている人がいるようである。さらには、コンビニが混んでいるためお昼ご飯を食べないと回答した人や、学食が空いていないため外に出てお昼ご飯を食べると回答した人もいた。そのため、学内の環境が改善されれば実践女子大学生のお昼ご飯の実態の変化する可能性があると言える。